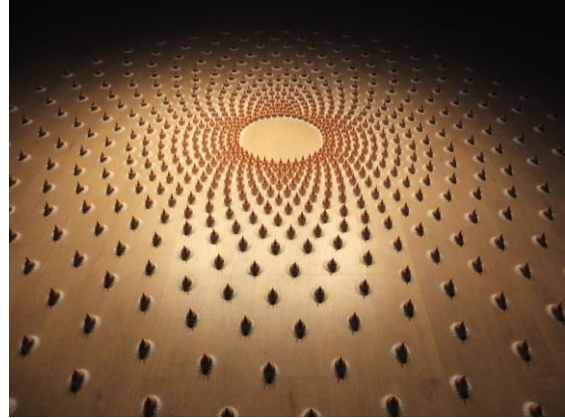


# NEWS RELEASE

2017.9.12

## インドネシア若手アーティスト 東京初の大型個展 アルベルト・ヨナタン「TERRENE」

2017年10月7日(土) から開催



ポーラ ミュージアム アネックス(東京・中央区銀座)では、インドネシアを代表する若手アーティスト Albert Yonathan (アルベルト・ヨナタン) の展覧会 「TERRENE」を2017年10月7日(土) から11月5日(日)まで開催いたします。

アルベルト・ヨナタンは、粘土を用いて陶磁器制作を行っており、作品全てのパーツを、雛形などを使用せずに、自らの手で制作しています。2013年のヴェネツィア・ビエンナーレにて、インドネシア館代表アーティストの1人として最年少で選出されました。現在、国立新美術館と森美術館で開催中の東南アジアの現代アーティストのグループ展『Sunshower』にも参加する注目の若手アーティストです。

タイトルの「TERRENE」は、ラテン語の土 (terra) を語源としており、“土からきたもの” 又は “土のようなもの” と定義されます。「物質と無形、世俗的と精神的など、正反対同士の間を探ることが本展の中心的な目的となる」と本人は語っています。今回、海外から高い評価を受けている陶磁器を使ったインスタレーションを中心に映像やドローイングなど、現在進行中のプロジェクトの新作を含めて約10点を展示予定です。

### || 展覧会概要 ||

展覧会名：アルベルト・ヨナタン「TERRENE」

会 期：2017年10月7日(土) - 11月5日(日) [30日間] ※会期中無休

開館時間：11:00 - 20:00(入場は19:30まで)

入 場 料：無料

会 場：ポーラ ミュージアム アネックス (〒104-0061 中央区銀座1-7-7 ポーラ銀座ビル3階)

アクセス：東京メトロ 銀座一丁目駅 7番出口すぐ

東京メトロ 銀座駅 A9番出口から徒歩6分 / JR 有楽町駅 京橋口から徒歩5分

主 催：株式会社ポーラ・オルビスホールディングス

協 力：ミズマアートギャラリー

U R L：<http://www.po-holdings.co.jp/m-annex/>

キャプション：左 Solar Worship / 右 Mandala Study #4

【リリースに関するお問い合わせ】株式会社ポーラ・オルビスホールディングス コーポレートコミュニケーション室  
info-annex@po-holdings.co.jp TEL 03-3563-5540 / FAX 03-3563-5543

【読者からのお問い合わせ先】ポーラ ミュージアム アネックス TEL 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

**POLA MUSEUM ANNEX**

## || 作家コメント ||

人間と粘土の関係について考えてみると、様々な探るべき側面があると思います。長い間粘土と親しんで制作していることによって、人間の精神性を映す素材として、粘土の詩的な側面も把握出来るようになりました。粘土、土、大地というものは、私たちが物質的存在であることを常に思い出させるものです。また、暗闇なくして光なし、その逆もないということを知っているように、「無形」というものがなければ、人間は「物質」という概念を発想していないのではないのでしょうか。私にとっての「粘土」は先述の二つの思想を常に思い出させます。私たちの存在について知っていることは全て、粘土の中に反映されているのです。その中で、我々の身体を大地の方へ引いている重力のエネルギー、体の老化過程、そして人間の「容器」である体が、ある日また大地へ帰ることもそうなのです。

「Terrene」という言葉は、土からきたもの又は土のようなものを定義しています。日常的な存在、つまり精神的というより世俗的なものを意味します。語源の「terra」というのはラテン語では「土」の意味になります。私は「terrene」という単語には、2つの逆説の意味が込められていると思います。世俗的かつ物質的でありつつも、無形な概念の反映。物質と無形、そして世俗的と精神的という正反対の間を探ることは、本展の中心的な目的となります。

数年間、粘土やセラミックを用いて制作を続けてきたおかげで、粘土の唯一の可塑性や適応性、さらにはその全ての技法をじっくりと感じる事ができました。陶磁器制作では繰り返し行う過程が非常に多く、これらのプロセスは物理的現実を思い出させるものとして、世界に存在する具体的かつ身体的経験と物質性へのつながりを考えさせるのです。

この現象こそが、私が陶磁器制作の(原始的ともいえる)手作り過程を大切にしている理由のひとつです。完成されたオブジェの美しさではなく、制作過程の瞬間を、作品を通して認識し、強調していきたいと思います。現在の急速な社会発展とは対照的に、陶磁器制作における繰返し過程が解毒剤のような役目を果たしていくのではと思います。全てが早いペースで実行・成長していく脱工業化社会に対する私個人の抵抗とも言えます。

本展は、「craft practice(工芸)」の定義を探求し、拡大するという私の試みの一部です。私にとって「工芸」というのは、具体的な物質の結果や完成作品だけでなく、その制作過程も含まれます。ドローイング、ビデオ、その他のメディアを含むいくつかのセラミック・ミックス・メディアインスタレーションで構成されており、その一部の作品は、2014年と2015年から開始しているプロジェクトとなります。

## || プロフィール ||



Albert Yonathan (アルベルト・ヨナタン)

2007年インドネシアのバンドン工科大学陶芸学部を卒業し、2012年にバンドン工科大学院修士課程修了。2012年より京都を拠点に活動中。

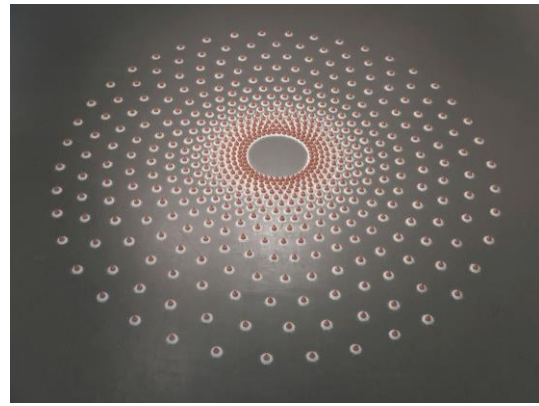
現在、京都精華大学大学院芸術研究科陶芸専攻博士課程在学中。日本をはじめインドネシア、シンガポール、タイ、イタリアなどで開催されたグループ展に参加。第55回ヴェネツィア・ビエンナーレのインドネシア代表アーティストの1人として最年少で選出。個展としては、シンガポール、日本、タイ、インドネシアで開催。2017年は、国立新美術館と森美術館で開催中の東南アジアの現代アーティストのグループ展『Sunshower』に参加。

## Artist Statement

There are many aspects to explore in thinking about the relationship between human and clay. Working with clay intimately for a period of time had allowed me to understand the poetic aspect of clay as an art medium to represent human spirituality. Clay, soil, or earth is a constant reminder of our material existence. And, just as we know that there would be no light without darkness and vice versa, there would be no concept of materiality without immateriality. Clay, for me, is a constant reminder of both ideas. Everything that we know about our existence is reflected on clay, the gravitational energy that holds us and keeps pulling us toward the earth, the aging process of our body and the decaying process that someday this 'vessel' will return to earth.



Mandala Study #4



Mandala Study #4

The word 'terrene' is referring to something of the earth or like earth. Terrene can also mean earthly or mundane, something of the world and secular rather than spiritual. The word 'terrene' also related to the word 'terra' which means soil, and the word for me contains two paradoxes: it is secular and material but it is also a proof and reflection of immateriality. The main idea of the exhibition is to explore this tension about materiality and immateriality, secular and spiritual.

Working with clay or ceramic materials for several years has given me the chance to explore the plasticity and malleability of the material, including all its techniques, to produce and re-produce forms in a way that they become a meditative practice. Ceramic making contains a huge amount of repetitive processes and these processes can function as reminder of our physical reality, our concrete and bodily experience of being in the world and our connection to materiality. This is one of the reasons why I still value this hand-made and primitive process in ceramic, not so much as to achieve beautiful objects as final products but to emphasize on the process and to be aware of every moment of it. In contrast to how our society functions today when everything is running and growing at a fast pace, this repetitive process can function as an antidote, and is part of my resistance towards an instantaneous post-industrial system.

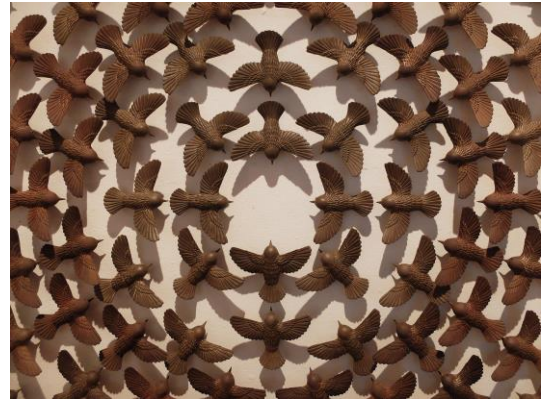
This exhibition is part of my ongoing process of exploring and expanding the definition and the scope of craft practice. For me craft is not just about the concrete physical results or the final products, but it is also about the process, the ephemerality of the mediums that we use in the process. This exhibition will consist of several ceramic and mix media installations involving drawing, video and other mediums. Some works in this show are considered ongoing project that I have started since 2014 and 2015.

## Profile

Albert Yonathan graduated from Bandung Institute of Technology, majoring in ceramic art, in 2007 and finished his Master degree in 2012 at the same university. Since end of 2012 he has been based in Kyoto, where he is completing a PhD in ceramic arts at Kyoto Seika University. He has participated in several important group exhibitions in Indonesia, Singapore, Thailand, Italy and Japan, including the 55th Venice Biennale as one of the artists representing Indonesian Pavilion. He has also held numerous solo exhibitions in Singapore, Japan, Thailand and Indonesia. In 2017 he features in the largest ever exhibition of Southeast Asian art to take place in Japan, "Sunshower", held at the Mori Art Museum and the National Art Center in Tokyo.



Earthly Radiance



Earthly Radiance